

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

令和5年3月

美作大学生生活科学部

児童学科

美作大学大学院

人間発達学研究科

目次

I	教職課程の現況及び特色	- 1 -
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	- 3 -
__	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	- 3 -
__	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	- 6 -
__	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	- 10 -
III.	総合評価	- 14 -
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	- 15 -
V	現況基礎データ一覧	- 16 -

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 美作大学生活科学部児童学科および美作大学大学院人間発達学研究所
- (2) 所在地：岡山県津山市北園町 50
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

学生数： 児童学科 教職課程履修 328名／学科全体 328名

人間発達学研究所 教職課程履修 1名／学科全体 2名

教員数： 児童学科 教職課程科目担当（教職・教科とも）21名／学科全体 56名

人間発達学研究所 教職課程科目担当 11名／研究科全体 17名

2 特色

児童学科は昭和56年に学科設置と同時に幼稚園一種・小学校一種免許の課程認定を受けた。その後、平成20年に大学院人間発達学研究所が設置され、幼稚園専修・小学校専修免許の課程認定を受けた。

児童学科では、子どもを取りまく社会環境の変化や子どもの意識・行動の複雑化、多様化等に対応した教育の推進を通じ、保育、教育及び子育て支援の分野において優れた知見と実践的・応用的能力を身に付けた地域社会に貢献できる専門的職業人の養成という学科の教育目標にもとづいて、教員養成の目標を以下のように掲げている。子どもの心理・発達、児童文化、教育学等子どもへの理解を深める学習を基礎に、模擬授業の積極的な導入、教育現場との連携を密にした教育により、幼稚園・小学校教諭としての資質の向上をはかり、実践的・応用的能力を身につけた幼稚園・小学校教諭の養成をめざす。発達支援や臨床心理等の心理系科目の充実、そして現場との連携を密にすることにより、子どもの心の問題に対処できる能力を持つ幼稚園・小学校教諭の養成をめざす。アクティブ・ラーニングによって、教育の現場で求められる課題設定能力と解決能力を身につけた幼稚園・小学校教諭の養成をめざす。

人間発達学研究所は、発達支援及び学校・教育課程開発の各分野における教育研究において、保育や教育に関わる共通課題、即ち発達上の諸課題を科学的に探究できる能力と、得られた見識・知見を基礎に、発達支援や学校における教育・生徒指導充実のために必要な高度な応用的・実践的スキルを修得を教育目標とする。発達支援分野では、幼児・児童の心理・発達のメカニズムの研究・解明、それをベースにした発達の支援方法に関わる実践的な教育研究により、心理学的な知識やスキルを備え専修免許を有する小学校・幼稚園教諭等、幼児・児童の発達支援に関しイニシアチブをとることのできる高度な専門的職業人の養成を目的とする。学校・教育課程開発分野では、学校社会における望ましい人間

関係や生徒指導・生活指導に関わる教育研究、学力保証の社会的要請を踏まえた教育方法・教育課程開発に関わる教育研究により、高度な知見と見識を身に付けた専修免許を有する小学校教諭や幼稚園教諭の養成を目的とする。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

児童学科および人間発達学研究所は、教員養成の目的・目標をディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーをふまえて設定し、育成をめざす教師像である「地域社会に貢献できる教師」とともに教職課程学生、院生に周知している（資料1-1-1、資料1-1-2、資料1-1-3）。こうした目的・目標は、毎年見直しが行われ、学科会において教職員に共有される（資料1-1-4）。人間発達学研究所では、専修免許希望者がいる年度に研究科委員会において教職員に共有される（資料1-1-5）。とりわけ年度当初の学科会においては、上述の目的・目標によった教職課程教育の計画が協議、立案される（資料1-1-6、資料1-1-7）。そして、ディプロマ・ポリシーをふまえた教職課程教育を遂行するために、教職課程「履修カルテ」を活用したラーニング・アウトカムの可視化をはかり、その学習成果を把握できるようにしている（資料1-1-8）。人間発達学研究所では、研究科委員会において、個々の学習状況が報告・議論され、院生の進捗状況を把握できるようにしている（資料1-1-5）。

〔長所・特色〕

児童学科および人間発達学研究所は、研究科専任教員全員が学科との兼担であることから、育成をめざす教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程教育の目的・目標を共有している（資料1-1-9）。そして、教職課程学生、院生はもとより、本学学生募集広報室、大学広報室とも協働し、高等学校や大学受験前の高校生、大学院入院志望者にも周知し、教職への強い意志をもった入学者、入院者の獲得に努めている（資料1-1-10、資料1-1-11、資料1-1-12）。

〔取り組み上の課題〕

児童学科および人間発達学研究所は、教職員、教職課程学生、院生に対し、教職課程教育の目的・目標の周知に努めている。しかし、その理解度については検証できていない。これは、非常勤講師についても同様である。今後は、教職課程教育の目的・目標を達成するため、とりわけ非常勤講師については、意見交換会などを開催し、その周知、理解に努めていくことが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 児童学科教員養成の目的・目標
<https://mimasaka.jp/about/disclosur/training/>
- ・資料 1-1-2 : 児童学科教育目的・目標、児童学科ディプロマ・ポリシー、児童学科カリキュラム・ポリシー
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/policy/>
- ・資料 1-2-3 : 大学院の目的、教育目標、人材養成の目的
<https://mimasaka.jp/undergraduate/graduate/>
- ・資料 1-1-4 : 児童学科 2022. 10 月学科会報告書
- ・資料 1-1-5 : 2022 年度第 3 回人間発達学研究科委員会議事録
- ・資料 1-1-6 : 児童学科 2022. 4 月学科会報告書
- ・資料 1-1-7 : 児童学科 2022. 5 月学科会報告書
- ・資料 1-1-8 : 「履修カルテ 2022」の「自己評価（小）」、「自己評価（幼保）」
- ・資料 1-1-9 : 児童学科カリキュラムツリー
<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-child-2023.pdf>
- ・資料 1-1-10 : 進学説明会_学科説明
- ・資料 1-1-11 : 進学説明会要項
- ・資料 1-1-12 : 大学院の案内・募集要項 p.21 「希望する指導教員との面談」
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

児童学科および人間発達学研究科は、教職課程認定基準をふまえ、研究者教員と実務家教員および事務職員との協働体制を構築し、教職課程を運営している（資料 1-2-1）。そして、学科会、研究科委員会において、教職課程の運営などに関する意見や教職課程学生、院生に関する情報を交換している（資料 1-2-2、資料 1-2-3）。とくに研究科委員会においては、教職課程院生が少数であることから、毎回一人一人の履修、研究状況が報告され、必要に応じた意見交換や対応協議が可能となっている（資料 1-2-3）。また、学科長、研究科長、各コース長、実習担当者が教職課程センター委員会にも出席し、全学的な教職課程の運営に関する動向の把握や学科、研究科間の教職課程の運営に関する情報を共有している（資料 1-2-4）。なお、学科学生から構成される教育改善委員から意見を聴取することにより、教職課程の運営に関する質的な向上をはかっている（資料 1-2-5）。そして、こうした教職課程の組織、運営に関する諸情報は、本学 HP 上におい

て発信されている（資料 1-2-6）。

〔長所・特色〕

児童学科および人間発達学研究所は、実務家教員として幼稚園、保育園園長経験者、保育士経験者、小学校教員経験者、施設経験者など、多様な実務家教員を配置し、学生のニーズに応じた教職課程を編成している（資料 1-2-7、資料 1-2-8）。とくに児童学科は、同一法人であり、幼稚園教諭二種免許状を取得可能である美作大学短期大学部幼児教育学科教職員との合同 FD を毎年開催している（資料 1-2-9）。これにより、ともに切磋琢磨しながら教職課程の組織力、運営力の向上をめざしている。

〔取り組み上の課題〕

本学は、授業評価アンケートや FD、SD に取り組んでおり、教職課程教職員にとどまらない全学的な教職員の資質、能力の向上をめざしている（資料 1-2-10、資料 1-2-11）。児童学科および人間発達学研究所も、こうした取り組みの成果を生かし、教職課程センターや他学科、他研究科などとの連携を深め、教職養成組織としてより高い組織力、運営力を形成したい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：履修要項 pp37-39
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigaku2022.pdf>
- ・資料 1-2-2：児童学科 2022. 5 月学科会報告書（資料 1-1-7 と同じ）
- ・資料 1-2-3：2022 年度第 3 回人間発達学研究所委員会議事録
（資料 1-1-5 と同じ）
- ・資料 1-2-4：2022 年度第 1 回教職課程センター委員会議事録
- ・資料 1-2-5：教育改善委員との意見交換会（議事録）
- ・資料 1-2-6：情報公開 <https://mimasaka.jp/about/disclosur/>
- ・資料 1-2-7：児童学科・実務経験がある教員の一覧
- ・資料 1-2-8：人間発達学研究所・教職経験者
- ・資料 1-2-9：幼児教育学科・児童学科合同 FD 議事録
- ・資料 1-2-10：令和 4 年 6 月美作大学 自己点検・評価報告書 p. 57-60
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/self-assessment-report-2022.pdf>
- ・資料 1-2-11：授業評価アンケート結果について
<https://mimasaka.jp/about/disclosur/other/>

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

児童学科および人間発達学研究所は、教職課程で学ぶにふさわしい学生像を、アドミッション・ポリシーをふまえて内外に周知し、パンフレットによって学生募集に取り組んでいる（資料 2-1-1、資料 2-1-2）。とくに人間発達学研究所は、学部 1 年生にも研究所のパンフレットを配布している（資料 2-1-3）。大学パンフレットの方針は、本学職員会議などにおいてもアナウンスされ、学科、研究科内にとどまらず、全学的な共通理解が促されている。また、オープンキャンパスなどにおいてはもちろん、本学学生募集広報室、大学広報室をはじめ、就職支援室とも共有され、高等学校や大学受験前の高校生、大学院入院志望者にもアナウンスされている。これにより、この方針を理解した高校生などが、入学選考に臨んでいる（資料 2-1-4、資料 2-1-5）。そして、いずれも、ディプロマ・ポリシーによりながら、適切な規模の教職課程学生を受け入れている（資料 2-1-6）。

また、児童学科は、カリキュラム・ポリシーをふまえ、教職課程の基礎となる教育学領域にとどまらず、児童文化領域、心理学領域に関する科目を設置するなど、子どもの理解をより深めるための基礎教育科目や専門教育科目を配置したカリキュラムを編成している（資料 2-1-7）。その際、本学 HP 上やシラバスにおいて「児童学科カリキュラムツリー」を公開し、学生が教職課程における各科目の位置づけや関係性を把握したうえで、教職課程諸科目を履修することができるようにしている（資料 2-1-8）。そして、教職課程の履修指導に際しては、改めてアドミッション・ポリシーの周知に努めるとともに、「履修カルテ」を活用しながら、每期開始時におけるクラス担任との面談をとおり、教職課程学生の適性や資質に応じた教職指導に取り組んでいる（資料 2-1-9）。こうした取り組みは、人間発達学研究所においても同様である（資料 2-1-10）。

〔長所・特色〕

児童学科および人間発達学研究所を卒業、修了し、教職に就いた卒業生、修了生の多くが、中四国、沖縄県を中心とした教育現場で活躍している（資料 2-1-11）。直接的ではないが、そうした卒業生、修了生の活躍が本学受験者、教職課程学生、院生の増加につながっていると考えられる。また、児童学科は、教職に就いている卒業生と教職をめざす在学生との交流の機会を設けることにより、在学生の教職への意欲を維持、向上するよう努めている（資料 2-1-12）。人間発達学研究所は、研究科専任教員が児童学科教員を兼担していることから、学部からの入院希望者は、研究科教員と事前相談をすることが可

能となっている（資料 2-1-13）。また、本学以外からの入院希望者にも、願書提出前に研究科長、必要と判断される場合、指導教員候補者との面談も実施している（資料 2-1-13）。

〔取り組み上の課題〕

児童学科は、教育実習履修のための履修基準を設けている（資料 2-1-14、資料 2-1-15、資料 2-1-16）。そのため、成績不振などの理由により、この基準に抵触し、教育実習を履修できない教職課程学生もいる。児童学科は、こうした学生に対しても、前述した「履修カルテ」などを活用した教職指導を継続することにより、教職への意欲を維持、向上させる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料 2-1-1 : 2023 年度(令和 5 年度)大学案内 pp. 45-57
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540300-0-3&cs=1&FL=0
- ・ 資料 2-1-2 : 2022 年度 大学院の案内・募集要項
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf
- ・ 資料 2-1-3 : 大学院発達研究科パンフレット
- ・ 資料 2-1-4 : 学生募集要
<https://mimasaka.jp/file/admission/student-recruitment-guidelines-2023.pdf?v=20220928>
- ・ 資料 2-1-5 : 大学院入試概要
<https://mimasaka.jp/admission/graduate/overview/>
- ・ 資料 2-1-6 : 学生状況
<https://mimasaka.jp/about/disclosur/student-situation/>
- ・ 資料 2-1-7 : 2022 年度美作大学履修要項 pp. 23-28
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigaku2022.pdf>
- ・ 資料 2-1-8 : 児童学科カリキュラムツリー
<https://mimasaka.jp/file/undergraduate/curriculum-tree-child-2023.pdf>
- ・ 資料 2-1-9 : 「履修カルテ 2022」の「自己評価（小）」、「自己評価（幼保）」
- ・ 資料 2-1-10 : 履修要項 p. 14「人間発達学研究科 人間発達学専攻 授業科目一覧」、p. 26 「美作大学大学院専修免許状取得に関する規程」、p. 34 「美作大学大学院インターンシップ規程」
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigakuinn2022.pdf>
- ・ 資料 2-1-11 : 就職実績 <https://mimasaka.jp/career-support/employment/>

- ・資料2-1-12：2022年度就職懇談会児童学科
- ・資料2-1-13：大学院の案内・募集要項 p.21「希望する指導教員との面談」
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf
- ・資料2-1-14：幼稚園教育実習履修基準2019以降
- ・資料2-1-15：小学校教育実習履修基準（H31年度入学者～）
- ・資料2-1-16：介護等体験履修基準_2019（1）

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

児童学科は、クラス担任制を導入し、每期開始時において個人面談を実施している（資料2-2-1）。これにより、教職課程学生の意欲や適性を把握するよう努めている。そして、それら情報を本学就職支援室とも共有し、教職に就くための各種情報の提供など、キャリア支援を行っている（資料2-2-2）。そして、全学的な就職先開拓訪問の一環として、児童学科教職員も、在学生の就職希望地にある学校や教育委員会などを訪問し、教員採用試験や教職に就いた卒業生の動向を把握している（資料2-2-3、資料2-2-4）。

また、本学就職支援室と協働し、毎年就職懇談会を開催している（資料2-2-5）。ここでは、教職への就職が決定した上級生から下級生に対する講話が行われる。これに加え、大学近隣に勤務している卒業生を招いての講話会、在学生主催による「合格者と語る会」などを開催している（資料2-2-6）。こうしていずれも、在学生の教職への意欲の向上はもちろん、教職志願者や教員採用試験合格者の増加をめざしている。

なお、人間発達学研究所は、既に教職に就いている社会人や学部からの進学者がほとんどであるため、こうした活動は設けておらず、個々のニーズに応じた対応を行っている。

〔長所・特色〕

児童学科および人間発達学研究所は、様々な地域からの入学者を受け入れている（資料2-2-7）。そのうちには、岡山県以外の都道府県からの入学生も、毎年一定数以上存在する（資料2-2-7）。その多くは、自身の出身地における教職への就職を希望し、実際に就職している（資料2-2-8）。これは、担任による個人面談、学科会、研究所委員会をとおして教職課程学生、院生の状況を把握した教職員が就職先開拓訪問などを行っていることによると考えられる。また、各種講話会、懇談会など、卒業生、修了生、在学生との積極的な交流の機会を設けていることも、こうした成果に寄与していると考えられる。

なお、人間発達学研究所は、院生、とくに新卒院生が小学校などにおいて講師、非常勤講師として教育現場での経験を積むことができるように、柔軟な時間割編成を可能としている（資料2-2-9）。

〔取り組み上の課題〕

前述した就職先開拓訪問も、面談などにとどまっている部分もある。今後は、そこで得られた情報を教職課程改善のための資料として活用するための整理、分析が必要と思われる。これによって、教職課程のさらなる充実、また少なからず起きている卒業生、修了生と就職先との不適合、早期退職への解決策の手掛かりとなると考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：2022 学生面談依頼文
- ・資料2-2-2：就職支援室★2022年児童学科指導一覧
- ・資料2-2-3：★開拓訪問幼保小学校一覧_2022 児童
- ・資料2-2-4：小学校訪問について 2022
- ・資料2-2-5：就職懇談会 <https://mimasaka.jp/syusyoku1/>
- ・資料2-2-6：教員採用試験合格者に聴く会
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/topics/art9131/>
- ・資料2-2-7：数字で見るキャンパスライフ <https://mimasaka.jp/campus/data/>
- ・資料2-2-8：出身県へのUターン就職率(2017年度～2019年度)
<https://mimasaka.jp/career-support/employment/>
- ・資料2-2-9：2022年度 大学院の案内・募集要項
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

児童学科は年間 48 単位を上限とするキャップ制のもと、小学校教員養成コース、保育士・幼稚園教員養成コースにおける教育目的・目標をふまえ、カリキュラム・ポリシーを設定している（資料3-1-1、資料3-1-2）。なお、人間発達学研究所は、キャップ制を採用していないが、上述と同様に教員養成における教育目的・目標をふまえたカリキュラム・ポリシーを設定している（資料3-1-3）。また、児童学科および人間発達学研究所は、教職課程科目相互の、また他科目などとの系統性を確保しながら、教職課程コア・カリキュラムに沿った教職課程カリキュラムを編成している（資料3-1-4、資料3-1-5、資料3-1-6）。これにより、今日における学校課題に対応できるような ICT 機器を活用して情報活用能力を育成する、アクティブ・ラーニングやグループワークにより課題発見、課題解決能力を育成することができる指導力の獲得をめざしている（資料3-1-7、資料3-1-8）。その際、各科目の学修内容や評価方法などをシラバスにおいて明示している。そして、児童学科は、教育実習履修のための履修基準を設けるとともに、教職課程の総仕上げの科目である教職実践演習において「履修カルテ」を活用しながら、教職課程学生の学修状況に応じた指導を行っている（資料3-1-7、資料3-1-8）。

〔長所・特色〕

児童学科は、教員免許状の取得を主たる目的としながらも、それに関連する保育士、認定心理士、レクリエーション・インストラクター、防災士取得試験受験資格などの取得のための科目を配置することにより、教育、保育、人、自然に関連する知識と技能を有する専門的職業人を育成している（資料3-1-9、資料3-1-10）。

〔取り組み上の課題〕

児童学科および人間発達学研究所は、教職課程カリキュラムを実施するにあたり、ICT 機器の設置や充実をはかっている（資料3-1-11、資料3-1-12）。とくに人間発達学研究所は、院生室において院生用 PC および統計ソフトを導入している（資料3-1-13）。しかし、教職課程学生、院生の ICT 活用能力は、個人差が大きい。そのため、ICT 機器を活用する指導法を学修するための教職課程カリキュラム上の創意工夫が求められる。また、教職課程学生、院生の高等学校、大学在学中における ICT 教育歴を把握することも重要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1 : 児童学科教員養成の目的・目標
<https://mimasaka.jp/about/discosur/training/>
- ・資料 1-1-2 : 児童学科教育目的・目標、児童学科ディプロマ・ポリシー、児童学科カリキュラム・ポリシー
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/policy/>
- ・資料 3-1-3 : 大学院の目的、教育目標、人材養成の目的
<https://mimasaka.jp/undergraduate/graduate/>
- ・資料 3-1-4 : カリキュラム(小学校教員養成コース)
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/curriculum-primary-school/>
- ・資料 3-1-5 : カリキュラム(保育士・幼稚園教員養成コース)
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/curriculum-child-care/>
- ・資料 3-1-6 : 2022 年度履修要項 p.14「人間発達学研究科 人間発達学専攻 授業科目一覧」
<https://mimasaka.jp/file/about/discosur/rishuuyoukou/daigakuinn2022.pdf>
- ・資料 3-1-7 : 「教職実践演習 (幼・小)」シラバス
シラバスは、シラバス検索システム (<https://mimasaka.cloud-syllabus.com/>) で閲覧可能。以下同様。
- ・資料 3-1-8 : 「保育・教職実践演習 (幼稚園)」シラバス
- ・資料 3-1-9 : 免許・資格(小学校教員養成コース)
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/license-primary-school/>
- ・資料 3-1-10 : 免許・資格(保育士・幼稚園教員養成コース)
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/license-child-care/>
- ・資料 3-1-11 : カリキュラム(小学校教員養成コース)児童体育
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/curriculum-primary-school/>
- ・資料 3-1-12 : 「教育工学特論」シラバス
- ・資料 3-1-13 : 大学院 R2 年度事業予算申請書_各課室センター宛_見本有

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携 〔現状説明〕

児童学科は、小学校教員養成コース、保育士・幼稚園教員養成コースより構成される。そして、いずれも、取得免許種別に応じた実践的指導力を高める機会を設けている。児童

学科は、1年次においてはコースを問わず、大学近隣の保育所、幼稚園、小学校、福祉施設での見学実習を実施している（資料3-2-1）。2年次において、とくに小学校教員養成コースは、大学近隣の小、中学校で学習支援ボランティアなどを行うスクールフレンド事業を実施している（資料3-2-2）。3年次前期において、津山市教育委員会および小学校長会との協力のもと、市内小学校で2日間の小学校教育実習参観実習を、3年後期において、4週間の小学校教育実習を実施している（資料3-2-3、資料3-2-4、資料3-2-5）。4年次において、教職実践演習の一環として、1年間をとおり、津山市および美作市教育委員会との協力のもと、両市立小学校において週1回の放課後補充学習を担当し、実際の児童を対象とした算数科の補充学習を実施している（資料3-2-6）。これら様々な体験活動に際しては、事前、事後オリエンテーションを実施し、教職課程学生に省察の機会を提供している（資料3-2-7、資料3-2-8）。

また、保育士・幼稚園教員養成コースは、教育実習が4年次に配当されていることから、小学校教員養成コースとほぼ1年遅れのかたちで、3年次後期において本学附属幼稚園の協力のもとで2日間の幼稚園教育実習参観実習を、4年後期において4週間、ないし2週間の幼稚園教育実習を、そしてそれと並行して津山市教育委員会および園長会、附属幼稚園の協力のもとで教職実践演習を実施している（資料3-2-9、資料3-2-10）。ここでも、事前、事後オリエンテーションを実施し、教職課程学生に省察の機会を提供している（資料3-2-10、資料3-2-11）。

なお、人間発達学研究所は、前述のとおり新卒院生が小学校などにおいて講師、非常勤講師として教育現場での経験を積むことができるように、柔軟な時間割編成を可能としている（資料2-2-12）。

〔長所・特色〕

岡山県北において教職課程を有する大学は、本学のみである。そこで、児童学科はこうした「地の利」を生かし、教育委員会や校舎長会、保育所、幼稚園、小学校、福祉施設などの協力のもと、見学実習、多様なボランティア活動、小学校教育実習参観実習、本実習、人間発達学研究所は現場に係る修士論文研究、特定課題研究などとおし、教職課程学生、院生が地域の子どもの実態や学校園における教育実践の最新事情を学ぶ機会を設けている（資料3-2-13、資料3-2-14）。

〔取り組み上の課題〕

児童学科および人間発達学研究所のみならず、本学教職課程センターの課題として、さらなる近隣教育委員会との組織的な連携体制や、教育実習協力校との教育実習をとおした協力体制の構築があげられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：実践力基礎演習の見学実習ノート
- ・資料3-2-2：令和4年度スクールフレンド研修会配付資料（2022/5/12）
- ・資料3-2-3：参観実習配属先 2022年度
- ・資料3-2-4：参観実習 各学校長宛て依頼文
- ・資料3-2-5：20230131_講話記録用紙_参観実習
- ・資料3-2-6：Close Up 02 実践力の養成
<https://mimasaka.jp/undergraduate/child-field/child/point/index.html>
- ・資料3-2-7：「事前事後指導（小学校）」シラバス
- ・資料3-2-8：「教職実践演習（幼・小）」シラバス
- ・資料3-2-9：参観実習オリエンテーション
- ・資料3-2-10：「保育・教職実践演習（幼稚園）」シラバス
- ・資料3-2-11：「事前事後指導（幼稚園）」シラバス
- ・資料3-2-12：2022年度 大学院の案内・募集要項
https://mimasaka.jp/file/admission/daigakuin_bosyuyoko_2022.pdf
- ・資料3-2-13：2021 実践力基礎演習概要報告書
- ・資料3-2-14：履修要項 p.34「美作大学大学院インターンシップ規程」
<https://mimasaka.jp/file/about/disclosur/rishuuyoukou/daigakuinn2022.pdf>

Ⅲ. 総合評価

児童学科および人間発達学研究所は、教職員に対し、教職課程教育の目的・目標の周知に努めている。しかし、その理解度については検証できていない。とりわけ非常勤講師については、意見交換会などを開催し、その周知、理解に努めていきたい。FD、SDは、全学的な取り組みはあるものの、教職課程センター独自の取り組みが十分ではないことが挙げられ、今後の課題である。

児童学科および人間発達学研究所は、適切な規模の教職課程学生を受け入れている。そして、入学生のほとんどが幼稚園、小学校などの教職に就いている。このような教員就職者の輩出には、「履修カルテ」などを活用したクラス担任等による教職課程の履修指導および学科・研究科教職員による学生サポートが大きい。また、教育実習履修基準に抵触し、配当学年では教育実習を履修できない学生にも、前述のような指導、サポートを行っており、学生の教職に対する適性や資質向上に貢献している。しかし、その一方で、教職員への負担が大きくなっていることも課題としてあげられる。

児童学科および人間発達学研究所は就職支援室と協力し、教職に就くための各種情報の提供など、キャリア支援を行っている。教員採用が決定した上級生から講話や教員として勤務している卒業生を招いての講話会などで教職への意欲の向上を図っている。今後、就職後の不適應や早期退職への対応が求められる。

児童学科および人間発達学研究所は、学校の今日的課題に対応できるような教職課程カリキュラムを編成している。中でも、ICT機器を活用した指導力の獲得をめざしている。しかし、学生のICT活用能力は、個人差が大きいため、教職課程カリキュラム上の創意工夫が求められる。

児童学科および人間発達学研究所は地域と連携した様々な体験活動を通して、実践的指導力の育成に努めている。しかし、近隣教育委員会との組織的な連携体制や実習協力校との協力体制の構築がまだ十分ではない。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教職課程センターは、学長の意を受け、学内の教職課程の自己点検評価を行うことを部教職課程センター委員会において決定した。その後、教職課程センター委員会において、自己点検評価の実施方針・実施手順を決定した。自己点検評価は、教職課程センター委員会が行い、目標は教職課程の現状を把握・認識した上で自己評価を行うこととする。その実施期間は令和4年度とし、対象とする領域・事項は「全国私立大学教職課程協会」の手引きを参照する。各学科に原稿の作成と資料の収集を依頼し、年度末までに報告書を作成した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名	学校法人 美作学園				
大学・学部名	美作大学生活科学部				
学科・コース名（必要な場合）	児童学科				
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数	9 6				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	9 4				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	9 1				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	3 9				
④のうち、正規採用者数	2 7				
④のうち、臨時的任用者数	1 2				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	6	6	5	0	
相談員・支援員など専門職員数					

法人名	学校法人 美作学園				
大学・学部名	美作大学大学院				
学科・コース名（必要な場合）	人間発達学研究所				
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数	1				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	1				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	0				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	0				
④のうち、正規採用者数	0				
④のうち、臨時的任用者数	0				
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ()
教員数	7	3	0	0	
相談員・支援員など専門職員数					